

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0373000744
法人名	有限会社ヘルパーはうす
事業所名	グループホームまぶる
所在地	〒028-1131 岩手県下閉伊郡山田町大沢2-6-3 (電話) 0193-82-1134

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月10日	評価確定日	平成19年11月21日

## 【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 12 月 20 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円

### (4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立山田病院・近藤病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔の学校を思い出されるような木造の落ち着いた色彩感覚の建物で、玄関を入った途端に自然と懐かしい気持ちになった。薪ストーブや囲炉裏のある部屋、台所から居室も見渡せるよう、また事務を取りながらも玄関の様子が確認できるように窓があり、設計の段階から管理者の意見により随所に見守りが出来るよう工夫された作りになっている。利用者も好きな場所で家庭にいる時のように自由に、ゆったりと自分のペースで過ごされていた。また管理者からは利用者の希望に出来るだけ添えるように真摯に取り組まれている姿勢が感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、平成18年11月22日の調査での課題と取り組みは全て改善されていた。またはその改善課題の取り組み予定があった。(感染症の学習会11月、平成20年1月に事故防止の研修会予定)家族の要望により行事に参加している時の表情が見たいとの意見でバーベキュー会をご家族、近隣参加で企画・実施したり、また病院の通院でも痛みの訴えの続いていた利用者の希望によりお寺に出向き拝んもらったり、一人一人の利用者の思いを大切に支援に取り組まれている姿勢が伝わってきた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたって、数日間を要し全職員の意見を聞きながら作成されていた。また職員も調査の趣旨、必要性を理解し、さらに利用者にとって良い援助に結びつけるようにしていきたいとの意見もあり、評価を受けることにより新たな気づきや改善・目標となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議のテーマは決めていない。事業者からの報告と行事予定が主となっているが、メンバーから色々な意見・要望をいただいている。担当課長からは推進会議のメンバー構成のアドバイスや研修会への参加の必要性など、日常的に助言をいただける体制が出来ている。また民生委員からは地元ならではの、より早く安全に避難できる場所の提示により津波訓練のアドバイスを受け、それを参考にして避難訓練が実施されていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会からなどの家族の意見はない。毎日面会に来られる家族もあり、また調査当日もご家族や知り合いの方が数名面会に来られていた。毎月の利用料を金融機関の振込みとしないで、ホームに来ていただき、少なくとも月一回は日常生活の様子を伝えたり見て貰い、プランについての意見や要望を聞く話し合いの機会としている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には入っていないが、隣に代表者の自宅や系列のヘルパー事業所もあり、近所の役割を話している様子で、ヘルパー事業所に利用者自ら出かけた時、ヘルパーさんもホームに来られ顔見知りになっている。また警察や消防等必要などには定期的に広報を発行し、グループホームの活動を理解して頂けるようにしている。地域の行事にも声を掛けてもらい、近所に犬や花を見に日常的に出かけるなど自然な形で地域との付き合いとなっている。出来ればもう少し積極的な働きかけを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	まぶるの理念を基に、日課として何をしようかと言うのではなく、ご本人の希望や意向を大切にした援助を心がけている。散歩されている利用者、ベンチで座って過ごしていたり、その利用者の好みの時間をゆったりと過ごしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員からは朝「今日は何かしたい事がある?」「どうする?」「こうしてもいい?」と声掛けをしながら、利用者の意向に添えるよう、また引き出せるよう援助がなされている。その人らしさを引き出すよう、個性・生活力を生かした関わりをしている。例えば、薪割り・調理・片付け・洗濯・タオルたたみ等、得意とすることをしてもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が犬を見に行ったり、花を見に行かせてもらったり、地域の行事があるときには声をかけて頂く等、自然な形で付き合っている。	○	受身的な感じがするので、地元の人々との交流の場が広がるよう、地域活動をもっと積極的に活用できればいいと思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたり、全職員の意見を日程調整をして取り組み、利用者・家族のサービスの質の向上に努めている。事務時間よりも利用者で過ごす時間を大切にしたいとの管理者の思いもあり、チェック等で簡潔に処理できるよう工夫もされ、またその中でも利用者の生活がわかるよう記録も大切にされていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を持ち、事業所の活動報告を主に進め、意見・要望を聞き活かしている。外出時の排泄の援助、避難訓練の体制や手順、筋力低下の予防について等活発な質疑応答、助言をいただける体制となっている。積極的な質疑応答や意見・助言が聞かれるよい関係が出来ているので今後も維持・継続して行って欲しい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、密に連絡を取り、グループホームを運営していて疑問を感じる時等には電話等で気兼ねなく相談できる関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	8名の家族は毎月利用料を払いに来られ、利用者の日常生活、プラン等について話し合いが持たれている。県外に住んでいる1名のご家族には金銭預かりの収支報告や、広報・近況報告を郵送やファクスをしている。広報により利用者の表情や行事の様子が伝わってきた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は作られていないが、家族の面会も多く、アンケート等により意見や要望を聞く工夫がなされている。現在までのところ特に意見は出ていない。利用者のレベル低下時の対応について話があり、今後の検討課題と感じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで2名の退職者があったが、隣の「ヘルパーはうす」からの支援により支障をきたすこともなく過ごしている。研修で職員の不足時にも、ヘルパーからの手伝いがあり、良い協力体制が出来ている。また日頃から不穏時や気分転換に利用者自ら「ヘルパーはうす」に出かける時もあり、顔見知りの関係が構築出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画により研修がなされている。業務に支障がないように日勤者を3名確保、管理者から介護福祉士の資格習得を勧められ、習得することでの手当でのアップにも繋がっている。職員からも勉強会や研修会参加等については満足している声が聞かれた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所当時は、他の事業所で実地研修を受けていたが、その後はなく、独自のやり方についても限界を感じたので、9月にグループホーム協会に加入した。今後、同業者と交換研修の予定がある。	○	11月に他のグループホームとの研修予定があり、自らの長所や短所の見直しや確認を行うことで、質の向上に繋がる事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学の希望があるときは対応している。また事前に(利用予定者の方のお宅に)様子確認に訪問もしているが、それでもなかなか馴染めない利用者もいれば、早々に落ち着かれる利用者もあり、様々であるが、利用者同士の仲間への声掛けで落ち着くこともあり、職員は助けられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理について教わることも多く、調査当日は利用者も参加して作られた「けんちん汁」をご馳走になった。豆が入っていないのが残念だ、と利用者の方々の声があったが、地域性がある話で興味深く感じられた。来客者をもてなしたい気持ちにより、「ご馳走」を考えた会話が皆で交わされていた。また、職員の年齢構成も良く落ち着いた家庭の雰囲気になっていた。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたい物があるときには、物(刺身や、ドーナツ等)により即対応している。また出かけたいと話している時には町内であれば意向に添う事も可能であり、満足してもらえるよう努力している。帰宅願望のある利用者をなぜ引き止めなければならないのか?と考えることがあるが、認知症による帰宅願望への対応は介護者にとって大きな課題と思われる。利用者の思いに沿ったケアに向き合っているからこそ課題と捉えて利用者の気持ちを大切にケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの情報を基にその方の基本状況の把握に努め、計画を立案、作成し利用者や家族に説明している。また体調等の変化のあるときや、定期的に職員の意見を取り入れ、見直しがなされ、利用者や家族に随時説明が行われている。また、家族も自然な様子で面会に来られ、良い関係が構築されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族には今後予想されるレベル低下や、見守りをしている、夜間居室内で予想される転倒などによる危険性も説明している。細かいことも話し合い、計画の見直しをしている。例えば、夜間、周りに気をつかい休むことが出来ない利用者の場合、「1時間、自室で横になるように誘導する」ことを計画に加えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ヘルパーの応援や連携により外出の希望や、職員の研修の参加等でも職員が不足することなく、柔軟な支援体制が取られている。また利用者の生活の場の広がりもなっている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内のかかりつけ医の時にはホームの職員が受診支援している。町外の場合は家族にお願いしているが、今後、町内に専門医がいない時には職員により町外の受診も検討していきたいと考えている。また家族の対応時にはグループホームでの様子や、バイタルチェック等適切な情報提供がなされている。また年1度、訪問歯科診療により利用者の口腔や入れ歯の状態を診てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、グループホームでのターミナルケアは設備や職員体制からみて困難である。事業所としては体調の変化に注意し早期発見に努め、次のステップにスムーズに移行できるよう援助している。また家族とも今後予想される状態の変化等、話し合う機会をもち、常日頃から家族の意向の確認に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は目に付かないよう整理・保管されている。また排泄時の誘導は、小さな声で話す等プライバシーに配慮した援助がなされ、個々にあった声がけや対応が来ている。時として利用者間のトラブルに繋がりそうな時は、職員からも良し悪しを示す毅然とした態度で接するときもある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の希望の聞き取りがなされ、希望により毎日入浴している利用者もいる。また散歩は日に何回も出かける利用者もいる。また職員は朝、利用者が今日何がしたいのか？聞けるように声がけがなされている。車椅子の利用者と個別に買い物に行ったとき、その利用者の喜ぶ姿を見て、これからも個別の援助が増えるようにしていきたいと職員のケアに対する真摯な姿勢が窺われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、ボードに献立を書いて声をかけながら進めたりしているが、土曜日のお昼は利用者の希望を聞きメニューを決めている。食事の準備から後片付けまで個々に役割を持ち職員と一緒に行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当日も声がけにより「何時頃お風呂に入りたいのか？」入浴の希望が取られている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を聞き出すように努力もしており、畑仕事やストーブの薪割り等手伝っていただいていたときもあるが、直接役割りと結びついてはいない。ストーブに薪をくべることや囲炉裏を囲んで過ごす中で、昔の生活を思い出しながら楽しみのある生活が出来ているように感じられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の犬や庭の花を眺めたり、普段から1時間くらいは外に自由に出かけている様子である。国道に近いが利用者の行動パターンを把握して、また見守りも行っている。ボランティア等人手のあるときには、ドライブに急遽出かけたりもしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は(6:30から18:00)鍵を掛けない。また利用者の行動パターンも把握しているが、常に見守りもしている。また事務を取りながらも玄関の様子が見えるよう窓があり、チャイムも設置されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	代表者宅は、昼夜、ボタンひとつで連絡が取れ、緊急時の応援体制が出来ている。海の近くでもあり、津波があったときに20分で避難できれば助かるとの事で、タイムを計り17分で避難訓練を行うことが出来た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養師による栄養バランスのとれた献立作成、水分量は最低980mlが確保できるように支援されている。制限食の調味料も考慮し、身体に影響ない食生活になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の動きが調理しながらも確認できるようにと、玄関の様子も事務を取りながらも把握できるように窓がある。囲炉裏のある部屋、薪ストーブ、デッキで座って過ごす利用者等、落ち着いた色彩の中で、ゆったりとその人らしい生活が出来るよう配慮されている。また玄関には利用者や職員で作ったビーズの暖簾が飾られており、趣(オモムキ)があった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌や、小テーブル、衣装ケース等が持ち込まれ、利用者好みの部屋となっていた。		